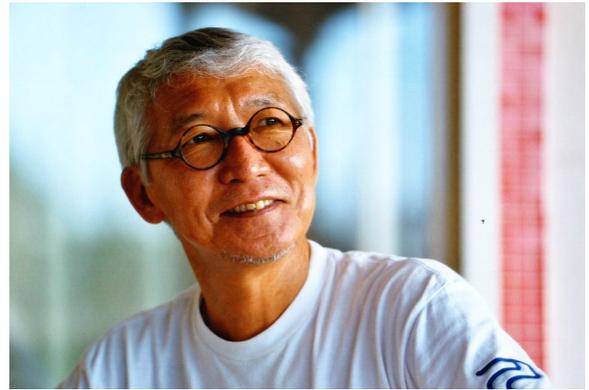


石田 秀輝 Emile H. Ishida

(同)地球村研究室 代表
(一社)サステナブル経営推進機構 (SuMPO) 理事長
(一社)エコシステム社会推進機構
One Planet Research Lab.(OPaRL)研究代表
酔庵塾 塾長
東北大学名誉教授・・・他



Address

〒891-9222 鹿児島県大島郡知名町徳時 910 酔庵
<奄美群島 沖永良部島>
• E-mail: emile.h.ishida@gmail.com
• FB: https://www.facebook.com/ishida.emile
• Tel: 0997-84-3310

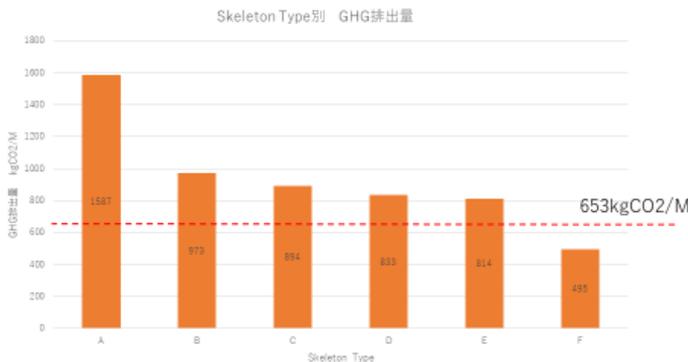
Recent Publications

- 学術論文・総説など約 590 報、特許 101 件、著書 78 冊 学術賞など 21 件 (2025.01)
- 2025.01 (一社)サステナブル経営推進機構 (SuMPO) は、人員増 (15→60 人) のため神田小川町に第 2 事務所「神田小川町オフィス」を新設
- 2024.04 「One Planet Research Lab. (OPaRL オパール 一つの地球で暮らせる社会を描く研究所)」を (一社) エコシステム社会推進機構内に設立

世界中の人が日本人と同じ暮らしをするなら地球が 2.8 個必要、無論地球は一つしかない。持続可能な社会の創成には、環境負荷を 1/2.8=約 4 割に削減する必要がある。我慢することなく、ワクワクドキドキ心豊かな暮らしを担保しながら、どうやって 4 割の環境負荷で暮らせるのか？

バックキャスト思考で未来を描き、それをオントロジー工学を用いて行為分解し、3EID を用いて定量化することを開始した。

沖永良部島の暮らし調査では、すでに地球一つ以下で暮らしている方が多く居り、平均でも地球 1.2 個であり、それは自然とコミュニティーの親和性が大きく影響していることも明らかとなった。また、東京での暮らしもいくつかの条件を入れてやることで、地球一つの暮らしにかなり近づける可能性も見えてきた。



A 調査結果
 B SKELETON MODEL
 C SKELETON MODEL 豊かな食
 D SKELETON MODEL 豊かな食+地域で循環
 E SKELETON MODEL 豊かな食+地域で循環+未病と健康
 F SKELETON MODEL 豊かな食+地域で循環+未病と健康+日本平均光熱費

Fig. 東京夫婦暮らしの環境負荷変化 (いくつかの条件を与えた場合)

7月10日に第2回OPaRLシンポジウム開催予定。

<近著>

『ひらめき! はつめいものがたり 11 みのまわりのもの』チャイルド本社 (2024) 監修
 『持続可能な発展に向けた地域からのトランジション』環境新聞社 (2023) 分担執筆
 『2030年の未来マーケティング』ワニプラス (2022)
 『危機の時代こそ 心豊かに暮らしたい』KKロングセラーズ (2021)
 『バックキャスト思考で行こう!』ワニプラス (2020)
 『ありがたーい生き物たち』リベラル社 (2019)
 『Lifestyle and Nature』Pan Stanford Publishing (2019) 『バックキャスト思考』ワニプラス (2018)
 『自然に学ぶ暮らし I II III』さえら書房 (2017)